

第 1 回芸備線再構築協議会の開催結果について

1 概 要

令和 6 年 3 月 26 日に開催された第 1 回芸備線再構築協議会の開催結果について報告する。

<p>【芸備線再構築協議会の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象路線：芸備線 ○ 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市） ○ 構 成 員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、三次市、広島市、JR 西日本、学識経験者 ほか ○ 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場 ※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景

令和 5 年 10 月 3 日 JR 西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和 6 年 1 月 12 日 中国運輸局が、要請区間を特定区間とする芸備線再構築協議会の設置を決定

3 月 26 日 第 1 回芸備線再構築協議会の開催

3 議 事

- (1) 芸備線再構築協議会規約等について
- (2) 芸備線再構築協議会の設置について
- (3) 芸備線の現状について
- (4) 構成員からの意見について

4 各構成員の主な発言内容

構成員	主な発言内容
中国運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会においては、まずは調査事業により芸備線やその沿線の現況を把握し、具体的な事業は幹事会において検討・実施を行いながら、ファクトとデータに基づいた協議を行い、再構築方針の作成に向けて取り組んでいく。 ・ 恒常的に地域住民の利用が回復するための取組の実施について、費用負担の在り方も含め、検討していく。 ・ 地域のまちづくりの将来展望、広域的な観光連携の取組などについても、協議会の議論に必要ではないかと考える。 ・ 鉄道ネットワーク全体の諸問題の取扱いについては、全国レベルで検討していただくべき課題と考えている。
J R 西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸備線の現状について説明。 ・ 利用状況、利用促進等の取組とその結果を踏まえた議論をお願いしたい。 ・ 「鉄道輸送の維持」「他の交通モードへの最適化」のいずれの場合も、利用者の利便を如何に確保するかの議論が必要と認識。 ・ 費用負担の問題も含めて、一定の役割を果たしていく事は大切な事と認識。 ・ 地域交通の分野に留まらず、持続可能な地域社会の実現に向けて、地域の活性化に貢献していく。

構成員	主な発言内容
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸備線は地域住民の日常生活の大切な移動手段であり、地域の基幹的・広域的な公共交通として、二次交通など地域の公共交通を支える重要な存在である。 ・ 鉄道特性も含め、前提を置かず、一つ一つ議論を積み重ねながら進めていきたい。 ・ J R西日本から詳細なデータ等を示していただき、協議会で分析や議論をしていく必要がある。 ・ 地域住民の生活を守ることを第一に考えながら、持続可能な交通体系の実現に向けた具体的な方策について、議論したい。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R西日本は、現在の経営状況を踏まえ、なぜ維持できないのかを説明してほしい。 ・ J Rの収益が伸びているプラスの状況変化や国鉄改革の経緯を踏まえ、国は「内部補助の枠組整理を踏まえた全国的な鉄道ネットワークの方向性」を示していただきたい。 ・ 移動実態について、データなどを活用してしっかりと把握・調査すべき。 ・ 実証事業においては、移動需要と供給のマッチング、公共交通を活かした利便性の向上、潜在需要の掘り起こしなどを提案し、芸備線の可能性を最大限追求していく。 ・ 取組の過程では、J R西日本においても、利用者の利便性向上のため、最大限取り組んでいただきたい。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会は、傍聴希望も多く、公開方法について検討してほしい。 ・ 市議会から協議会の構成員として参画したい旨の要請もあるので検討してほしい。 ・ 構成員は、広島県の自治体の方が多いため、協議において、地域間での偏りが出ないように配慮してほしい。 ・ 国は今後の全国的な鉄道ネットワークの在り方についての考え方を示してほしい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能性の高い交通基盤とするためには、今ある地域の輸送資源を総動員し、交通体系を維持していく必要がある。 ・ 過疎地域において、鉄道の新たな価値や役割を見出し、評価するための取組が重要。 ・ 交流人口の増加や地域産業の活性化に資する実証事業に取り組んでいきたい。 ・ 国は、地方の活力を維持するとともに、個性あふれる地方創生を図る沿線自治体の取組に対して積極的な関与をお願いしたい。
呉工業高等専門学校 神田教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ利用者が長年にわたって減り続けたかしっかりと検証しておくべき。 ・ 道路環境は向上したが、人口減少の中、沿線人口の推移や目的地に魅力があるか、目的地に到達できる都市構造であるか等の要素から交通需要予測を行うべき。 ・ 今回の議論は、芸備線の在り方とともに、沿線地域の在り方を論じる中で、20年30年先を見据えてどのような地域を実現するかを考えていくべき。

5 その他

(1) 今後のスケジュール

- 令和6年秋 頃 第2回芸備線再構築協議会
- 令和7年3月頃 第3回芸備線再構築協議会
(以降、順次開催)

※ 協議会の円滑な運営を図るため、下部組織として、幹事会（第1回は5月中旬頃に開催予定）を設置。
また今後、必要に応じて、部会を設置。

(2) 予算（単県）

—